

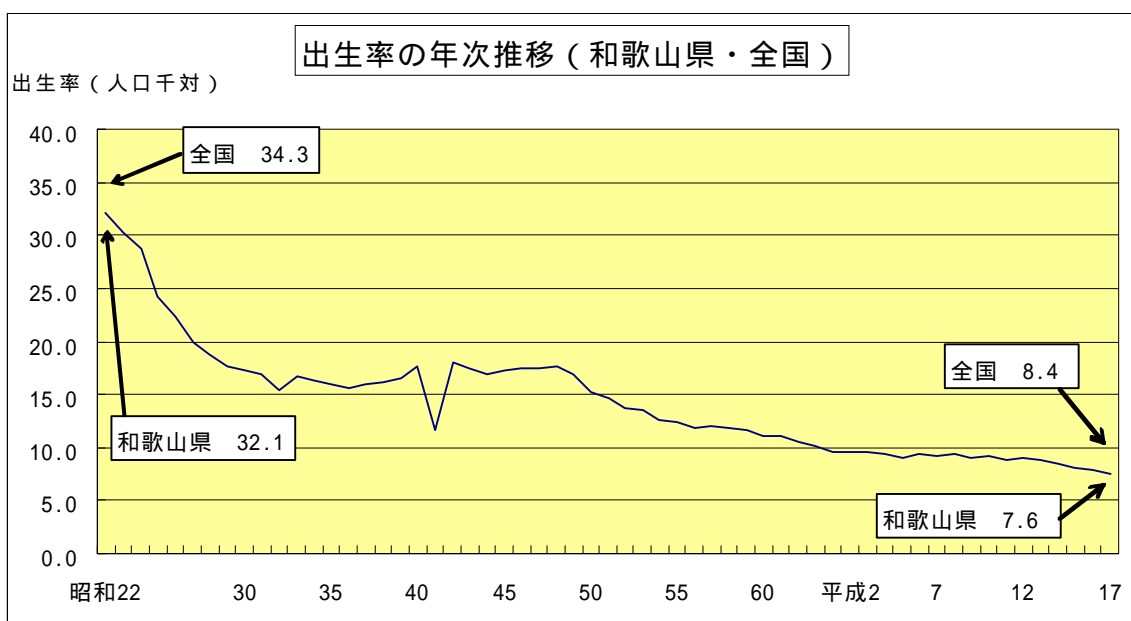
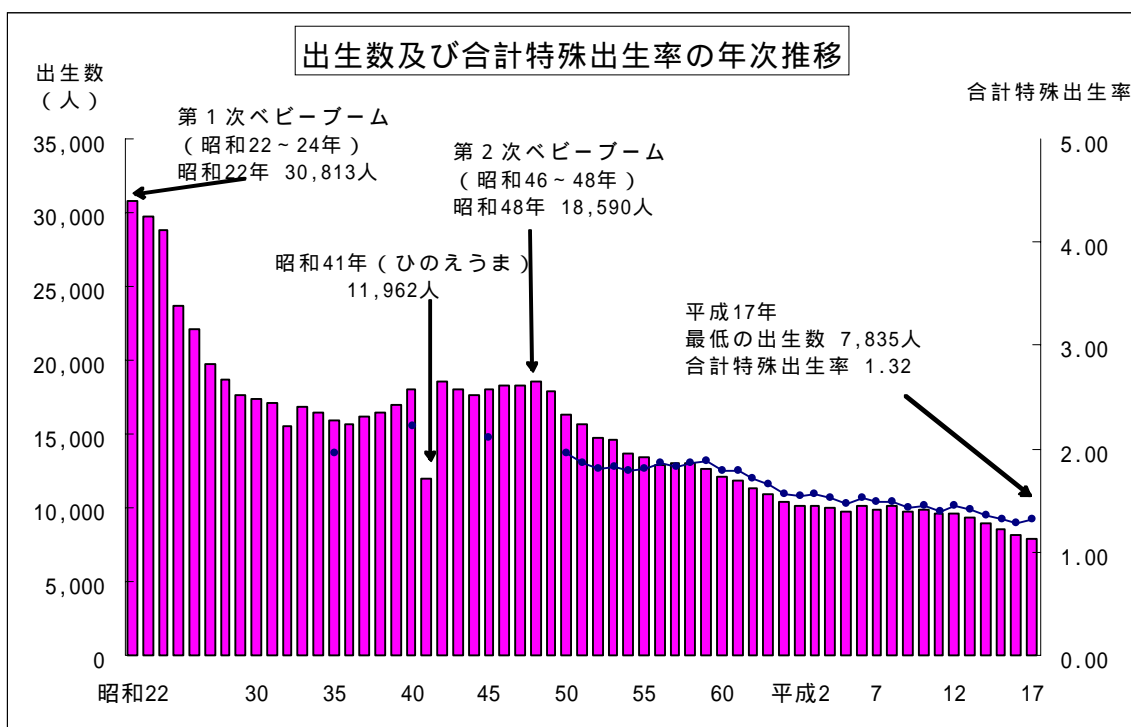
結果の概要

1 出生

平成17年の出生数は7,835人で、前年の8,153人よりも318人減少し、前年に引き続き戦後最低となった。

出生率（人口千対）は7.6で前年の7.8を下回った。また、合計特殊出生率は1.32で前年の1.28を上回り、平成17年の全国値1.26も上回った。

昭和50年以降は毎年減少し続けていたが、平成に入ってから増加と減少を繰り返しながらも減少傾向にある。平成17年度は出生数・出生率が戦後最低となった。



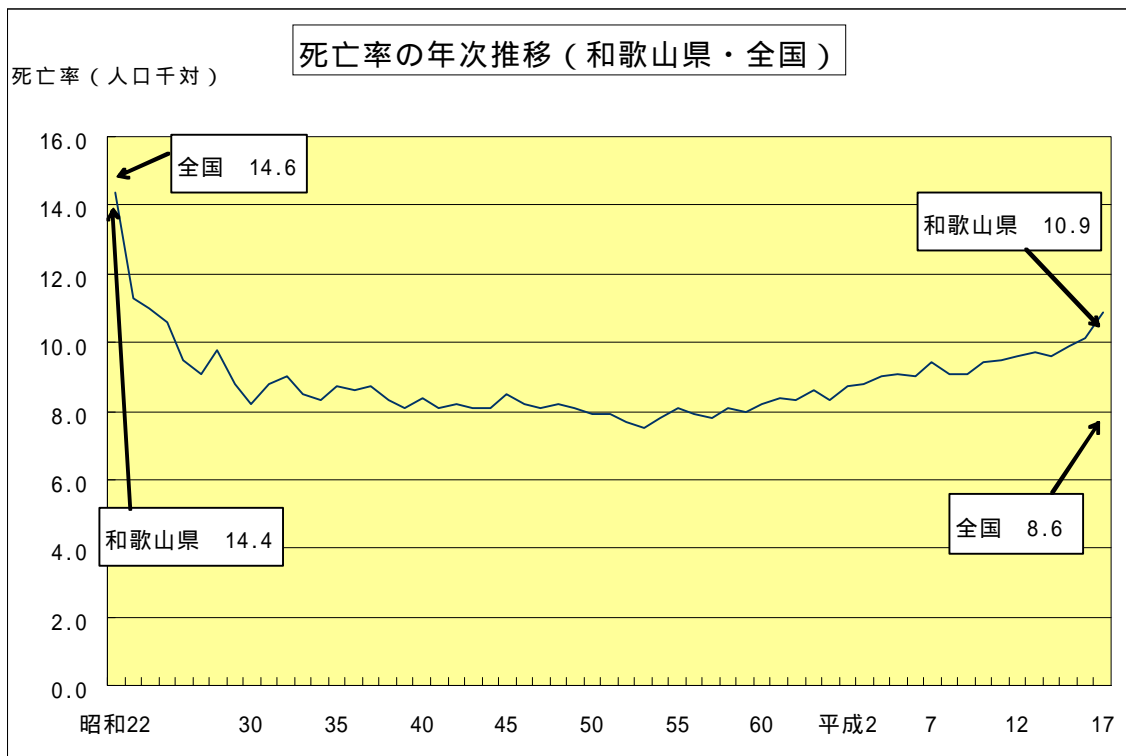
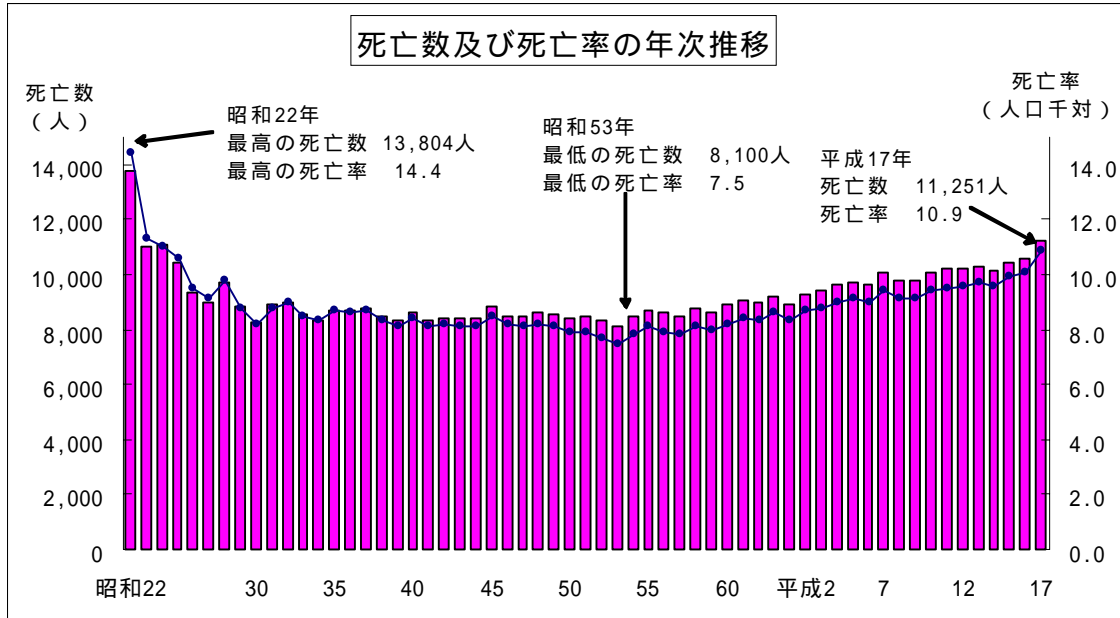
2 死亡

(1) 総死亡

平成17年の死亡数は11,251人で、前年の10,600人より651人増加した。

死亡率（人口千対）は10.9で前年の10.1を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成7年及び平成9年以降は1万人以上となり上昇傾向にある。



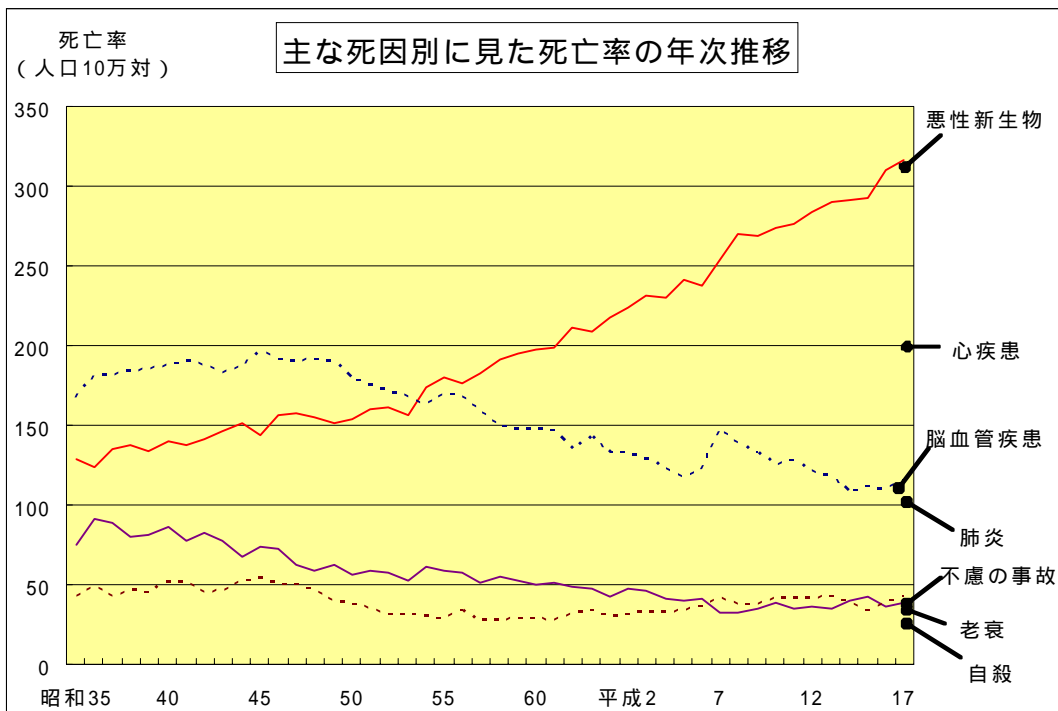
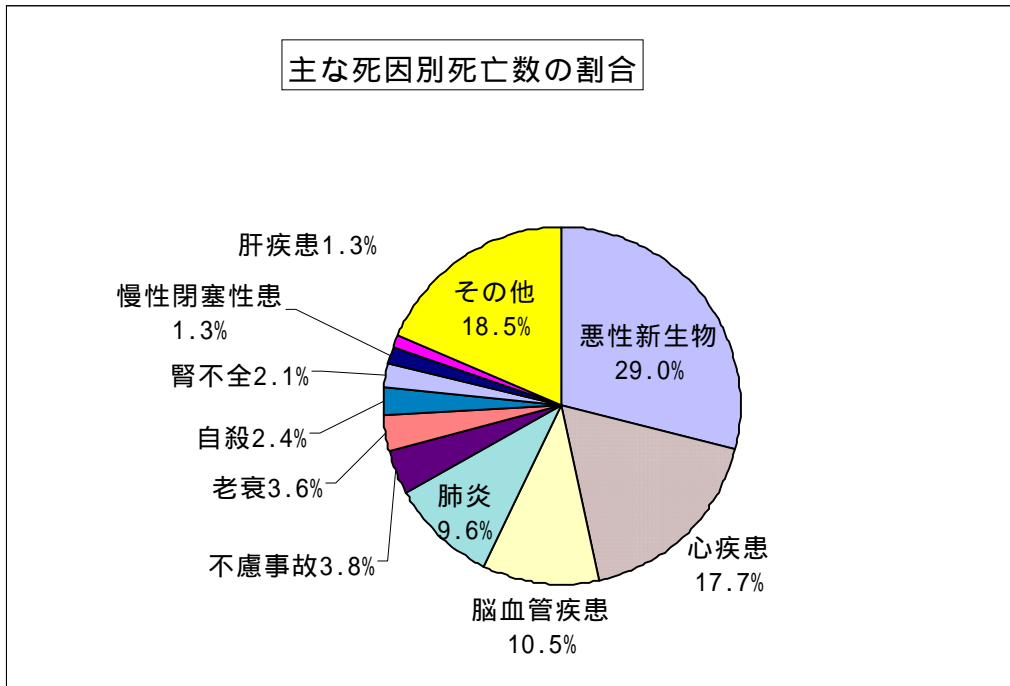
(2) 死因別死亡

死因別に見ると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ29.0%、17.7%、10.5%となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は一貫して上昇を続けており、昭和54年以降は第1位である。

心疾患は昭和58年に脳血管疾患に変わって第2位となり、その後も死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

脳血管疾患は昭和53年までは第1位であったが、54年には第2位、58年には第3位となった。その後も低下傾向にあるが、平成7年に上昇、平成8年には再び減少し、近年は横ばいとなっている。

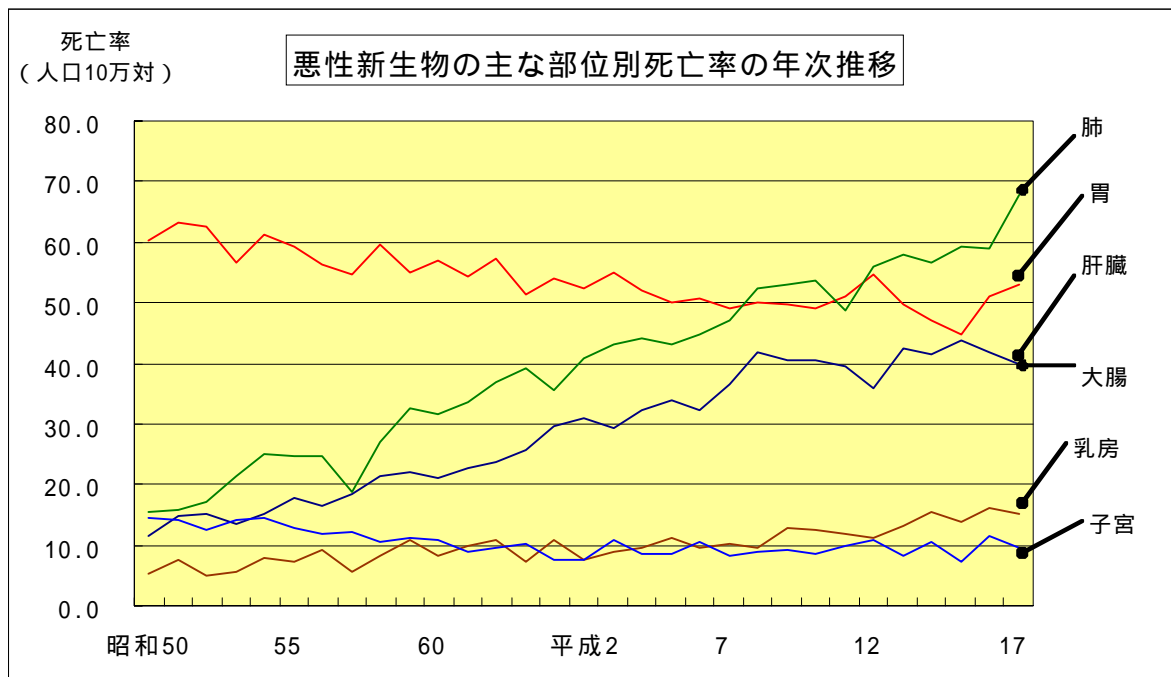


(3) 部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡者は3,264人であり、前年の3,235人よりも29人増加した。

死亡数を部位別に見ると、1位「肺」2位「胃」3位「肝臓」となっている。

上昇傾向にあるのは「肺」「大腸」であり、「肺」は平成8年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き1位となっている。



注) 「大腸」は昭和54年からの分類である

「乳房」「子宮」は女子10万人対の死亡率である

(4) 乳児死亡、新生児死亡

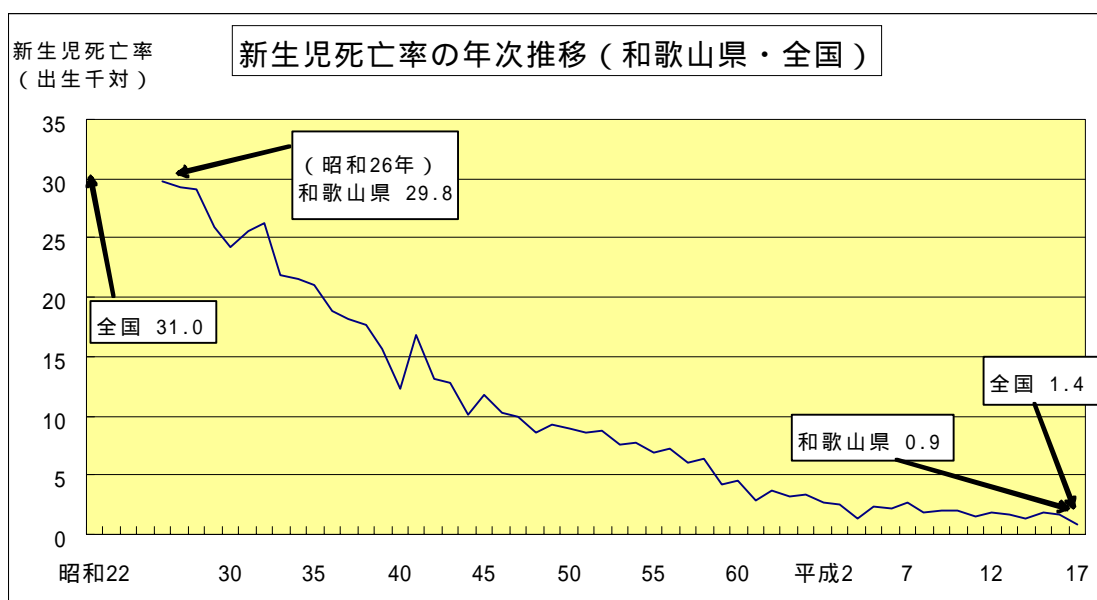
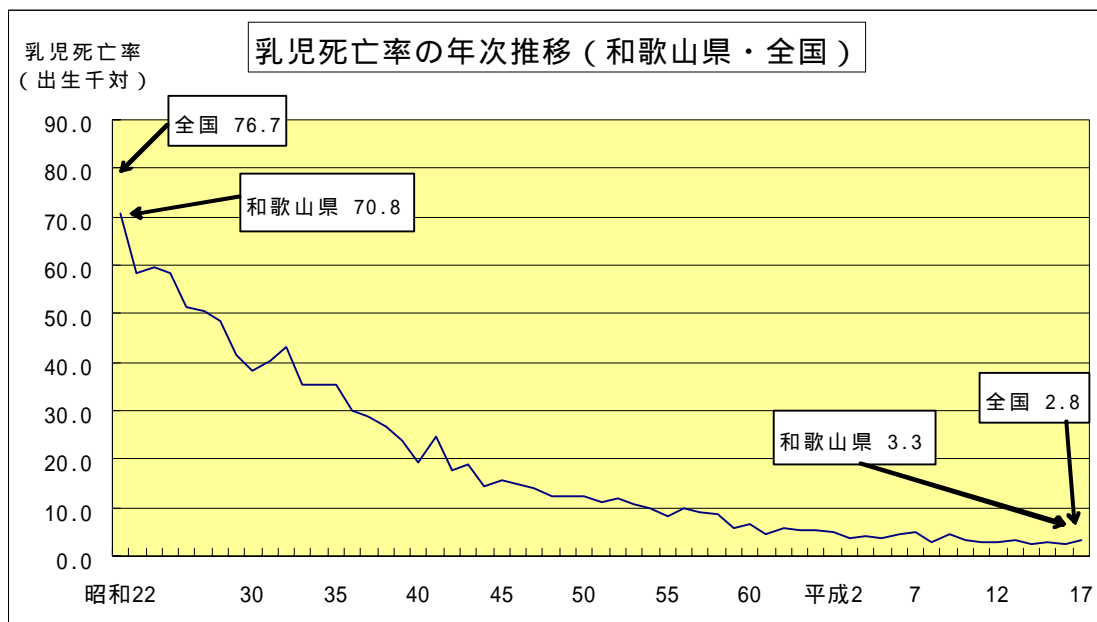
平成17年の乳児死亡は26人で、前年の21人より5人増加した。

乳児死亡率（出生千対）は3.3で、前年の2.6を上回った。

また、平成17年の新生児死亡は7人で、前年の14人より7人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は0.9で、前年の1.7を下回った。

年次推移を見ると、乳児死亡・新生児死亡とも昭和32年をピークに減少傾向にある。



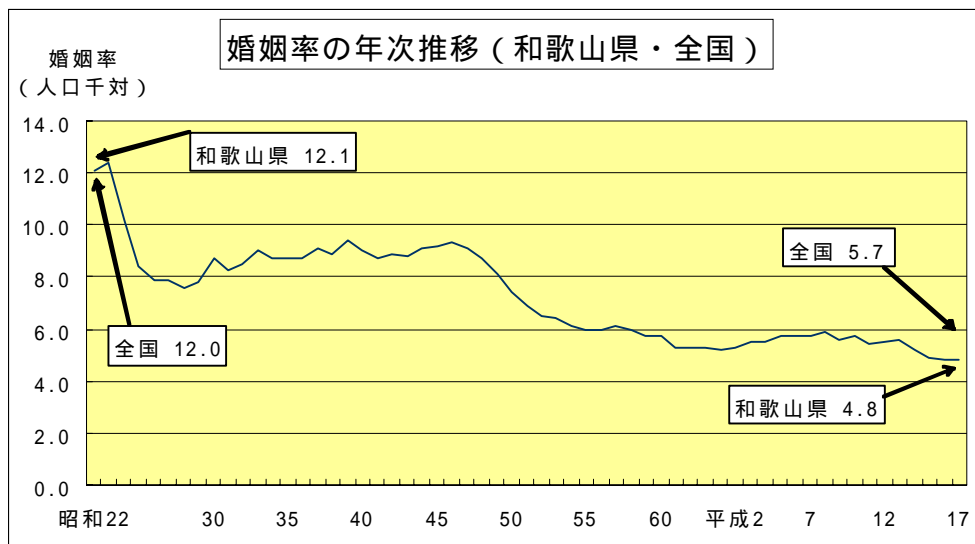
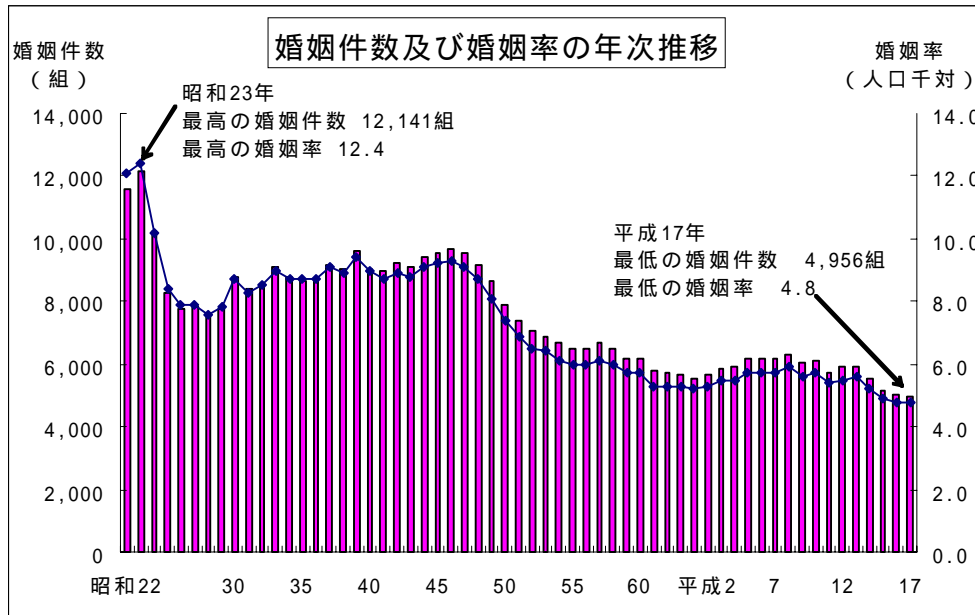
3 婚姻

平成17年の婚姻件数は4,956組で、前年の5,005組より49組減少した。

婚姻率（人口千対）は4.8で前年と同率となっている。

昭和23年以降、婚姻件数は急激に減少し、昭和30年から40年代前半は9,000組前後で推移していたが、昭和46年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返していたが、平成14年以降は減少を続けている。平成17年は婚姻件数、婚姻率（前年同率）とも戦後最低となった。

平成17年の平均初婚年齢は、夫29.1歳、妻27.4歳である。

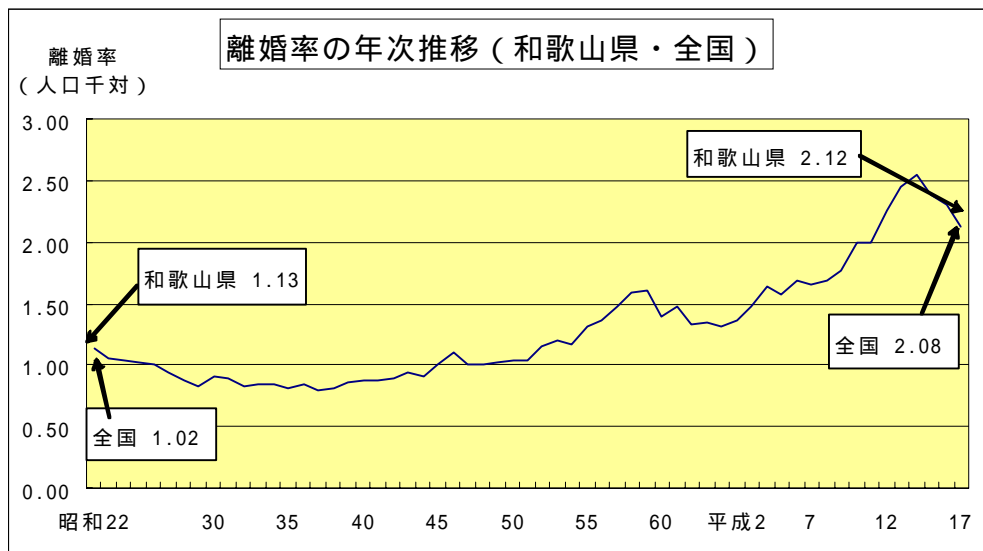
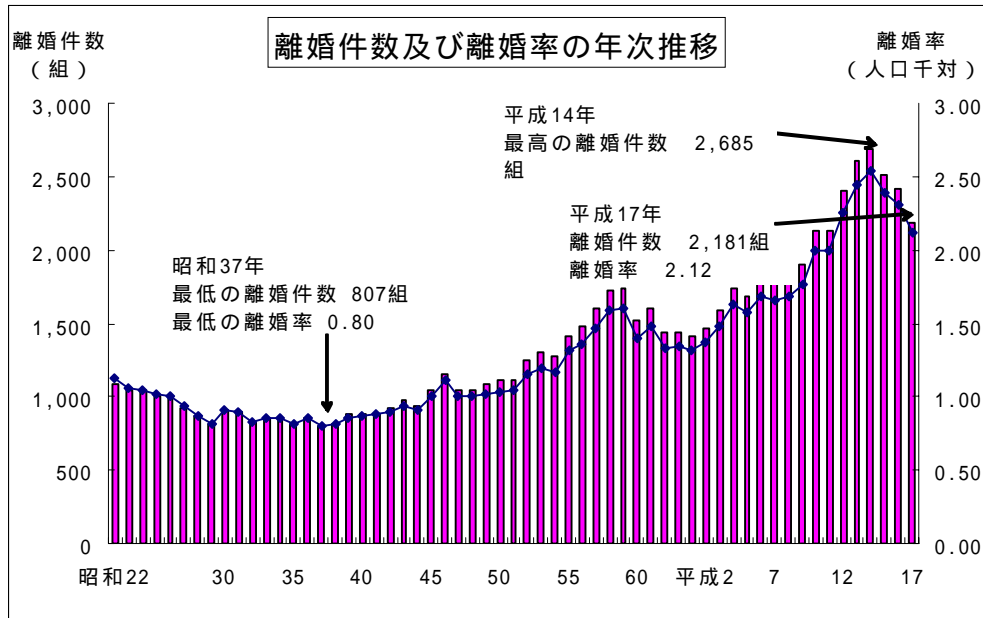


4 離婚

平成17年の離婚件数は2,181組で、前年の2,415組より234組減少した。

離婚率（人口千対）は2.12で前年の2.31を下回った。

昭和37年以降、離婚件数は緩やかな増加を続け、平成元年以降は急激に増加していたが、平成17年は平成16年に続き減少した。



統計表